

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

事務局便り

No. 31

2016年4月10日

会 長 大室剛志

事務局 〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1 近畿大学経営学部 吉田幸治研究室内

tel.: 06-4307-3365 (研究室) / fax. 06-6729-2493 (経営学部 教養・基礎教育部門)

Email: segu.office@gmail.com

ウェブサイト: <http://segu.sakura.ne.jp>

郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

◆会長の交替

本学会会長選出内規に従って2015年9月に行われた会長選挙において、2016年4月からの会長に大室剛志氏（名古屋大学）が選出され、2015年10月24日開催の運営委員会および総会で承認されました。任期は2年間です。

会長の交代に伴い、事務局業務も近畿大学経営学部（吉田幸治研究室）に移管いたします。

◆新会長挨拶

会長就任のごあいさつ

会長 大室剛志

『英語語法文法研究』創刊号(1994)を手にとってみると、最初のところに初代会長である小西友七先生が「ごあいさつ」を書かれており、最後のところに「英語語法文法学会設立趣意書」が載せられている。この2つを拝読すると当学会の原点がよく分かる。創立から約四半世紀たった今、その原点を会員の皆様と共に再確認しておくことは、自戒の念も込め、重要であると考えます。

「ごあいさつ」には、「ここに集まられた方々は、ひとしく、言語とか言語理論を語る前に、英語という個別言語をもっと明らかにしたい、という願いをもって来られたに違いない。」「英語という生きた1個の生命体を対象とし、そのすべての徹底的研究を共通の目的とした、新しく美しい統一体(unity)が、その名も『英語語法文法学会』（何度、目にし口にしてもすばらしい名ではないか）となって誕生したのだ。」という2文がある。

さらに「趣意書」にも次のように述べられている。「特に日々英語を教え、また英語の学問を志す私達にとって、英語の具体的な語彙や構文の特性を一つ一つ明らかにするという態度は忘れてはならない原点であります。事実これまでの英語学を底辺から支えてきたのはまさにそのような地道な研究であり、そこから私達自身も多くのことを学んできました。」

これらから、英語の個々の語の語法に興味がある研究者とそれよりもより一般的な英文法に興味ある研究者がお互いの立場を尊重しつつ、互いに協力して、英語という個別言語を徹底的に究明することが、当学会の目的であり、原点であることが分かる。

「ごあいさつ」には、この目的を達成するための研究態度までも述べられている。「日本人の長所を生かした学風を築き上げたい。そしてその上、先人の積み重ねた足跡を辿り、相反する見解にも真摯に耳を傾け、常に謙虚な気持ちをもって自らの良心と思索の凝縮した細心にして精緻、しかも大局を見据えた、後世に残る世界的な業績をあげていきたいものである。」上で述べた目的と原点、そしてこの研究態度を私は学会員の皆様と共に心に刻み、日々前進していきたいと思う。そうすれば、英語のいわば基礎工事の部分を担当する当学会は今後もあるべき道から逸れることなく、発展、繁栄するに違いない。盤石な基礎のないところになにを建てようとしてもなにも建たないのだから。

学会にとって社会貢献も重要である。毎年8月に開催している「英語語法文法セミナー」は、英語の語法文法のさまざまなトピックを新しい角

度からわかりやすく解説することで、英語教育の現場や、英語を研究している学生、院生、教員に研究成果を還元するプログラムである。今年で12回目を迎えるが、吉良文孝先生を司会兼講師として、当学会の重鎮である八木克正先生と柏野健次先生とで上述の研究態度を堅持した『英語学的遺産に学ぶ—英語学の名著をひもとき現代的な課題に取り組む』というテーマで行われる。大いに期待下さい。

また、秋に開催される全国大会のシンポジウムも英語の口語文法をテーマとして、内田聖二先生、赤野一郎先生、澤田茂保先生を講師とし、八木克正先生をコメンテーターとして行われる予定である。こちらも大いに期待下さい。

学会事務局長を近畿大学の吉田幸治先生に、会計・名簿管理担当を龍谷大学の前川貴史先生にお願いしました。学会の活動はひとえに学会員の皆様の積極的な学問研究によっています。今後ともこれまで以上のご理解とご支援をお願い申し上げます。

◆前会長退任挨拶

4年間の会長職を終えて

内田聖二

この3月末で4年の会長職を終えることになりました。なんとか無事に大室新会長に引き継ぐことができ、安堵の気持ちでいっぱいです。

思い返せば、この4年間は学会の財政問題に明け暮れたというのが第一印象です。それまでも単年度の収支は赤字で、学会賞などに充てられる特別基金を除くと、剰余金を取り崩す状態が続き、逼迫した財政状況になっていました。こういった状況を打開するために、まず、会長を引き受けた年度に年会費の値上げをお願いするとともに、大会時の予稿集代や赤字分を補っていた懇親会費の値上げも行いました。それと同時に運営委員の皆様には運営委員会の出席時の交通費などについて無理なお願いをすることもいたしました。

学会活動の基本は会員の皆様の研究活動にあります。その会員を増やすことが基本中の基本ですので、運営委員をはじめ会員の皆様に新入会員の勧誘をニュースレターでお願いしました。その効果もあって、この数年は新規の会員数が退会会員数を上回り、わずかではありますが、会員は一定数維持することができています。ただ、まだ財政基盤は脆弱なままですので、引き

続き本学会の発展にご協力のほどお願い申し上げます。

もうひとつ忘れられないことがありました。それは、2年ほど前、研究不正にかかわることが問題となったことです。そのことが本学会の『英語語法文法研究』掲載論文の一部に波及し、私たちも研究者として改めて襟を正さなければならぬ事態となりました。このことを踏まえ、運営委員会において研究倫理ガイドラインを策定し、ホームページから閲覧できる体制を整えました。

はじめにネガティブなことを述べましたが、ポジティブなことももちろんありました。なかでも、2012年に学会設立20周年を迎えたのを期に、これまで培われてきた活動成果を広く社会に還元すべく、シリーズ「英文法を解き明かす」の出版を企画し、実現に向けて歩みだそうとしていることは特筆すべきことです。このシリーズは「ことばの基礎」「談話のことば」「ことばを彩る」「ことばとスコープ」「ことばの実際」という5つの視座から英語の文法事象と語法を、最新の知見からわかりやすく解説するものです。それぞれのカテゴリーに2巻ずつ充て、計10巻の構成で、本学会の中堅の研究者が執筆となっています。この4月に第1期2冊が刊行されます。ご期待ください。(詳しくはhttp://www.kenkyusha.co.jp/uploads/public_download/9784327238018-9784327238100.pdf および<http://www.kenkyusha.co.jp/purec/#ISBN978-4-327-23804-9>をご覧ください。)

今までもそうであったように、これからも英語の文法、語法の記述的な分析を通して英語の真髄を追究するというのが本学会の永遠の課題であると思います。この共通のテーマがある限り、本学会の使命は続きます。今後とも会員諸氏のご理解とご支援をお願い申し上げます。

◆『英語語法文法研究』第22号刊行

『英語語法文法研究』第22号が2015年12月に刊行されました。第22回大会でのシンポジウム「文化化と構文をめぐって」の論文3編のほか、1本の奨励賞論文を含む9本の研究論文と、論文取り消しのお知らせと改定された投稿規定が掲載されています。

◆第24回大会開催案内

英語語法文法学会第24回大会を下記の要領で開催します。

日時：2016（平成28）年10月22日（土）

会場：奈良大学

〒631-8502 奈良市山陵町 1500

<http://www.nara-u.ac.jp/>

順路：近鉄京都線「高の原」駅より奈良交通バス「奈良大学構内」行きで約5分「奈良大学構内」下車、徒歩すぐ。または「高の原」駅より奈良交通バス「学園前駅」行きに乗車約5分「奈良大学」下車、徒歩1分。あるいは「高の原」駅より徒歩約18分。

●大阪駅からは

JR 大阪環状線で鶴橋駅にて乗り換え、近鉄奈良線で大和西大寺にて再度乗り換えて近鉄京都線京都市行き急行・普通にて「高の原」下車。約55分。

●京都駅からは

近鉄京都線で奈良行き・天理行き・橿原神宮前行き急行にて「高の原」下車。約35分。

今回のシンポジウムは、「Spoken EnglishとWritten Englishをめぐって」（仮題）をテーマとして準備中です。司会、講師と各講師は以下のとおりです。ご期待ください。

司会・講師 内田聖二（奈良大学）

講師 澤田茂保（金沢大学）

講師 赤野一郎（京都外国語大学名誉教授）

コメンテーター 八木克正（関西学院大学名誉教授）

[敬称略]

ここ数年の奈良・京都方面への外国人観光客増加に伴い、宿泊予約の困難が予想されます。早めの宿泊予約をお勧めいたします。

◆第12回英語語法文法セミナー

標記セミナーを下記の要領で開催いたします。

日時：2016（平成28）年8月8日（月）

13時30分～17時30分

会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス 1405室

（〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19

アプローチタワー14階 1405室）

参加費：2,000円（資料代を含む）

今回のテーマは、『英語学的遺産に学ぶ—英語学の名著をひもとき現代的な課題に取り組む』です。司会と講師、各講師のテーマは以下のとおりです。

司会・講師 吉良文孝（日本大学）

「温故知新の英語語法研究」

講師 柏野健次（大阪樟蔭女子大学名誉教授）

「Dr. Bolingerの言語直観」

講師 八木克正（関西学院大学名誉教授）

「過去の研究に学んで現代の課題に取り組む—実証的研究のあり方を考える」 [敬称略]

必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。奮ってご参加ください。参加ご希望の方は、平成28年7月31日（日）までに件名を「セミナー参加希望」として segu.seminar@gmail.com までお申し込みください。

◆第16回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長故小西友七先生の寄付金を基金とした「第16回英語語法文法学会賞」（2014年4月1日～2015年3月31日までに出版された単行本が対象）について、今回は「該当者なし」という結果になったことが第23回大会（龍谷大学）において内田会長より報告されました。

◆第17回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第17回学会賞対象図書は2015年4月1日～2016年3月31日までに出版された単行本です。自薦、他薦を問いません。同封の推薦用紙に推薦図書、推薦理由を記入の上、faxあるいは郵便で2016年5月10日までに事務局宛にお送りいただくか、推薦の内容をemailで事務局までお知らせください（〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1 近畿大学経営学部 吉田幸治研究室内 英語語法文法学会事務局 fax: 06-6729-2493 email: segu.office@gmail.com）。

英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

（授賞）

第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」（以下「委員会」という）の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。

2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。

3 授賞式は年次大会において行う。

（関係部分一部抜粋）

◆第6回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

若手会員による英語の語法・文法に関する優れた論文に対して贈られる第6回「英語語法文法学会奨励賞」は、佐藤翔馬氏の「理由を提示する it is that 節構文」に対して授与されました。2015年10月24日の第23回大会において内田聖二会長より賞状と副賞が授与されました。

なお、第7回「英語語法文法学会奨励賞」は、本年7月10日締め切りの『英語語法文法研究』への応

募論文がその対象となります。

英語語法文法学会奨励賞授賞規定

(授賞の対象)

第2条 奨励賞は、毎年7月10日を締切日とする。

『英語語法文法研究』への応募論文(研究論文に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く)を対象として、英語語法文法学会の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に富む、優れた研究に対して授賞する。応募者は上記の締め切り日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了10年以内の学会会員に限る。

(選考方法)

第3条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則として年度ごとに1篇以内とする。

(選考結果の発表および授賞式)

第4条 翌年度の大会の総会にて行う。受賞者に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。

(関係部分一部抜粋)

◆運営委員の交替

本年3月7日開催の運営委員会において、運営委員として以下の方々の就任が承認されました(任期は2016年4月1日より2018年3月末日まで)。

梅咲敦子(関西学院大学)
住吉 誠(摂南大学)
五十嵐海理(龍谷大学) [敬称略]

また、本年3月末日をもって、以下の方々が運営委員を退任されました。学会運営に対するご尽力に心より感謝申し上げます。

神崎高明(関西学院大学)
安井 泉(筑波大学名誉教授) [50音順。敬称略]

◆編集委員の交替

神崎高明先生(関西学院大学)と安井 泉先生(筑波大学名誉教授)が本年度末をもって編集委員を退任されました。永年のご尽力に心より感謝申し上げます。近年の応募論文数の増加に鑑み、2016年度からは、5人の新任の編集委員をお迎えする運びとなりました。大橋浩(九州大学)、金澤俊吾(高知県立大学)、滝沢直宏(立命館大学)、家口美智子(摂南大学)、山岡 洋(桜美林大学)の各先生です。

◆名誉顧問の就任

第5代会長を務められました安井 泉先生(筑波大学名誉教授)が名誉顧問に就任され、今後とも様々なご指導を頂けることになりました。

◆運営委員会委員

2014年度より以下の2委員会が設置されました。各委員会の委員長、副委員長、構成員は、下記のとおりです(◎は委員長、○は副委員長(次期委員長))。

大会実行委員会

◎林龍次郎、○滝沢直宏、西田光一、松村
瑞子、吉良文孝、住吉誠、五十嵐海理

セミナー委員会

◎大橋浩、○梅咲敦子、牛江一裕、澤田茂
保 [敬称略]

◆第24回大会研究発表者募集

第24回大会での「研究発表」の発表者を募集します。会員の方は、下記の研究発表応募規定にしたがい、事務局宛(segu.office@gmail.com)に奮ってご応募下さい。

<研究発表応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 発表時間は25分以内(別に質疑応答が10分)とする。
3. 応募者は、下記①-④の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
 - ① 発表要旨(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル) : A4判 32字×25行(文字の大きさは12ポイント)で、本文と注を含めて4枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。
 - ② 応募者情報(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル) : 発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員の場合は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、fax番号、**email address**を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。
 - ③ 発表要旨(書類) : ①と同じ内容を印刷したものを1部。
 - ④ 応募者情報(書類) : ②と同じ内容を印刷したものを1部。③とは別紙に印刷すること。

4. 上記①②は email に添付し、英語語法文法学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に送信する。件名は「研究発表応募」とする。上記③④は封筒の表に「研究発表応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局宛（〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1 近畿大学経営学部 吉田幸治研究室）に送付する。
5. 応募締め切りは7月25日（月）（必着）とする。
6. 選考結果は8月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨（500字以内）を8月21日（日）までに、予稿集の原稿を9月24日（土）までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。
(2014年3月8日 改定)

[事務局からのお願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

◆第24回大会語法ワークショップ発表者募集

第24回大会の「語法ワークショップ」の発表者を募ります。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその語・構文の統語上、意味上、あるいは語用論上の特性を明らかにすることを目的とします。語法ノートの的なもので結構ですから、会員の方は下記の語法ワークショップ応募規定にしたがい、事務局宛に奮ってご応募ください。

<語法ワークショップ応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 発表時間は12分以内（別に質疑応答が5分）とする。
3. 応募者は、下記①-④の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
 - ① 発表要旨（MS Word ファイル あるいは PDF ファイル）：A4判 32字x25行（文字の大きさは12ポイント）で、本文と注を含めて4枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。
 - ② 応募者情報（MS Word ファイル あるいは PDF ファイル）：発表題目、氏名（ふりがな）、所属・職名（学生会員の場合は学年も記入）、郵便番号、住所、電話番号、fax

番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。

- ③ 発表要旨（書類）：①と同じ内容を印刷したものを1部。
- ④ 応募者情報（書類）：②と同じ内容を印刷したものを1部。③とは別紙に印刷すること。
4. 上記①②は email に添付し、英語語法文法学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に送信する。件名は「語法ワークショップ応募」とする。上記③④は封筒の表に「語法ワークショップ応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局宛（〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1 近畿大学経営学部 吉田幸治研究室）に送付する。
5. 応募書類の提出期限は7月25日（月）（必着）とする。
6. 選考結果は8月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨（500字以内）を8月21日（日）までに、予稿集の原稿を9月24日（土）までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。
(2014年3月8日 改定)

[事務局からのお願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

【応募上の注意】

研究発表と語法ワークショップの両方に同時に応募することはできません。
また、二重投稿はご遠慮ください。

◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』（第23号）への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法研究に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

近年インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

なお、本規程の第5項以下が昨年8月の編集委員会・運営委員会で大幅に改訂されておりますので、ご確認をお願いいたします。

<『英語語法文法研究』（第23号）の論文・語法ノートへの投稿規定>

1. 投稿は会員に限る。
 2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
 3. 投稿締め切りは**7月10日(日)(必着)**、採否決定を8月中旬、刊行を12月とする。
 4. 論文の場合、長さは**34文字×31行、16枚**以内とする。語法ノートの場合、長さは**34文字×31行、6枚**以内のものとする。
 5. 投稿者は、下記①②のファイルと③④のハードコピーを用意する。
 - ①論文・語法ノートの原稿（MS WordファイルまたはPDFファイル）。冒頭には論文題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。ファイルの情報として作成者名を残さないこと（ファイルの「プロパティ」等を確認し、必ず作成者名を削除するか匿名にする）。
 - ②執筆者情報（MS WordファイルまたはPDFファイル）。論文題名、氏名（ふりがな）、所属、連絡先の郵便番号と住所、電話番号、fax番号、email addressを明記する。なお、投稿論文が奨励賞の審査対象となることを希望する場合は、必ず、当該年度の投稿論文応募締切時点での年齢と、大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了した年月（または在籍中ならばその旨）を、このファイルに明記すること。（奨励賞は、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了10年以内の学会会員に授与されます。）
 - ③論文・語法ノートの原稿（ハードコピー）。①をA4用紙に印刷した紙媒体の原稿1部。
 - ④執筆者情報（ハードコピー）。②をA4用紙に印刷した紙媒体の別紙1部。
 6. 入力に関しては、特に以下の点に留意すること。
 - a. 投稿の段階では原稿に謝辞を入れない。
 - b. 例文の前後に1行ずつ空白行を設ける。
 - c. 各節には見出しをつけ、節の前に1行ずつ空白行を設けること。
 - d. 外字、機種特有の文字・記号は使用しないこと。
 - e. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
 - f. 2桁以上の数字は半角を用いる。
 - g. 小説・論文の出典は下のように表記する。
(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
 - h. 注は脚注とする。
 - i. 上記以外は既刊号の論文を参考にすること。
7. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。
- Hopper, P.J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.
- 杉野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の3つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二（編）『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京：英宝社。
- 小西友七. 1976a. 『英語の前置詞』東京：大修館。
- 小西友七. 1976b. 『英語シノニムの語法』東京：研究社。
- Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.
- 村田勇三郎. 1979. 「Functional Sentence Perspective」『英語青年』第125巻第3号, 20-21.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- van der Leek, F. 1996. "The English Conative Construction: A Compositional Account." *CLS* 32, 363-373.
8. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
 9. 著者校正は1回とし、変更は字句の修正のみとする。
 10. 原稿料は支払わない。
 11. 応募書類の提出先。第5項の①と②のファイル（MS WordまたはPDF）はemailに添付して、編集委員長宛にemail (segu.paper@gmail.com) で送ること。なお、件名を「投稿」とすること。第5項の③と④の紙媒体の原稿と執筆者情報（別紙）は、編集委員長宛*に郵送すること（「投稿論文在中」と朱記）。

*〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
青山学院大学文学部英米文学科 中澤和夫
(2015年8月4日改定)

【応募上の注意】
研究発表との二重応募、他学会の機関誌との二重投稿はできません。

◆英語語法文法学会第23回大会

英語語法文法学会第23回大会は2015年10月24日(土)に龍谷大学(深草学舎)にて開催され、語法ワークショップ、研究発表、シンポジウムが行われました。多数の参加者があり、活発な議論が行われました。司会を務めて下さった家口美智子先生、今野弘章先生に感謝申し上げます。また、開催校委員の前川貴史氏、五十嵐海理氏、当日お手伝いいただいた龍谷大学・摂南大学・京都大学の学生・院生の方々にもお礼を申し上げます。なお、龍谷大学からは、本大会開催に伴い補助金を頂きました。記して感謝致します。

語法ワークショップ 10.30-11.38

(22号館102)

司会 西田光一(下関市立大学)

1. 「英語の不変化詞の直示的機能について」
大谷直輝(東京外国語大学)
2. 「John ate the meat naked. 再考」
吉川裕介・大野真機(昭和大学)
3. 「existential *may* の用法について」
明日誠一(青山学院大学非常勤)
4. 「He built his house 型表現の意味構造と成立条件」
金子輝美(元・愛知淑徳大学非常勤)

研究発表 13.00-14.45

第1室(22号館102)

司会 家口美智子(摂南大学)

1. 「起動動詞 *begin, start* に後続する *to* 不定詞と動名詞の選択基準」
藏菌和也(関西学院大学大学院)
2. 「条件文の帰結節における *be going to* をめぐって一意味論と語用論の観点から」
佐藤健児(日本大学)
3. 「述語削除と法助動詞の陳述緩和的・根源的意味」
木村宣美(弘前大学)

第2室(22号館103)

司会 今野弘章(奈良女子大学)

1. 「英語の動詞が形容詞化する場合の否定性と婉曲性— *touchy* の意味解釈」
有光奈美(東洋大学)
2. 「動詞 *walk* が場所句・経路句を伴わないのはどのような場合なのか」
出水孝典(神戸学院大学)
3. 「英語における名詞のいわゆる「同格」節について」
濱松純司(専修大学)

シンポジウム 15.35-17.45

(22号館101)

テーマ「副詞を巡る諸問題: 語法文法, 辞書記述, 談話, 文体」

司会 滝沢直宏(立命館大学)

1. 「ly 副詞にみる副詞の多様性: 語法・文法・パターン」
滝沢直宏(立命館大学)
2. 「語法研究の要—副詞—コーパスを活用した辞書編集の立場から—」
井上永幸(広島大学)
3. 「副詞(類) *actually, really, indeed, in fact* の考察」
都築雅子(中京大学)
4. 「小説における副詞研究の多様性」
堀 正広(熊本学園大学)

懇親会 18.00-19.30

ホール1(22号館 生協食堂)

◆2015年度新入会員紹介

以下の方々が新しく本学会に加入してくださいました。どうぞ宜しくお願い致します。(50音順。掲載希望者のみ。)

- 有光 奈美(東洋大学)
石井 達也(広島大学大学院)
上木 貴史(関西外国語大学大学院)
大谷 直輝(東京外国語大学)
大野 真機(昭和大学)
川瀬 義清(西南学院大学)
海寶 康臣(立命館大学)
貝森 有祐(東京大学大学院)
木村 宣美(弘前大学)
桑名 保智(旭川医科大学)
杉山 桂子(小山工業高等専門学校)
長 加奈子(北九州市立大学)
西村 香奈絵(近畿大学)
萩澤 大輝(神戸市外国語大学大学院)
平山 裕人(大阪大学大学院)
三ツ石 直人(東洋大学大学院)
山本 五郎(広島大学) [50音順。敬称略]

◆年会費納入のお願い

2013年4月1日から年会費が変更され、「一般会員」は5,000円、「学生会員」は4,000円となりました。つきましては、2016年度(2016年4月~2017年3月)会費を同封の郵便払込取扱票でお支払いください。申し訳ありません、払込手数料は各自ご負担ください(郵便振替料金は120円(ATMからは80円)です)。金額欄が10,000円または8,000円になっている方は、昨年度分年会費が未納ですので、併せて納入くださいますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員資格が失効いたします。「学生会員」は郵便払込取扱票の通信欄に住所・氏名に加えまして、「在籍大学院名」もご記入ください。なお、学会からの配布物を確実にお手元にお届けするために、住所・所属に変更や異動のある方は、新住所・所属を郵便払込取扱票通信欄に明記いただくか、英語語法文法学会のウェブサイト

[\(http://segu.sakura.ne.jp/\)](http://segu.sakura.ne.jp/) の「登録情報の変更」
連絡用フォームにて事務局までお知らせくださいま
すようお願い申し上げます。

◆新刊書紹介

沖田知子・米本弘一(編).『英語のデザインを読む』
(阪大英文学会叢書 8) 東京：英宝社. 2015 年
10 月.

堀正広・赤野一郎(監修), 深谷輝彦・滝沢直宏(編).
『コーパスと英文法・語法』(英語コーパス研究
シリーズ) 東京：ひつじ書房. 2015 年 10 月.

松尾文子・廣瀬浩三・西川眞由美(編著).『英語談
話標識用法辞典』 東京：研究社. 2015 年 10 月.

編集後記

2014 年 4 月より、内田聖二会長のもと、事務局
をさせて頂いてきましたが、2016 年 3 月末をもち
まして、事務局長を退任する事になりました。また、
会計担当委員の住吉誠氏も同時に退任いたしま
す。

思い起こせば、2014 年度は深刻な事案に直面致
しましたが、2015 年度はお蔭様で大きな事案もな
く、会長をはじめ、会員の皆さま、運営委員の先
生方に助けて頂きながら、なんとか務めることが
できたことに感謝の念を深くしております。

また、偶然にも、2014 年度の第 22 回大会は摂
南大学、2015 年度の第 23 回大会は龍谷大学と、
事務局メンバーの所属先であったことで、大会の
運営もやりやすく、また、どちらの大会とも多数
の先生方、院生・学生の方々にご参加いただき、
まことに有り難く思いました。

それから、2015 年度は、ここ数年にわたって該
当無しであった本学会の奨励賞が授与されまし
た。受賞に値する質の高い研究が本学会の機関誌
に掲載されたことも、嬉しいことでした。

2016 年度からの 2 年間は、大室剛志新会長のも
と、近畿大学の吉田幸治氏が事務局長を、龍谷大
学での同僚でもある前川貴史氏が会計担当委員を
務めます。

英語の文法・語法の研究のさらなる発展に、本
学会がこれからも貢献していくことを願って止み
ません。

(2016 年 4 月 7 日 五十嵐海理)